

評価者	消防長	高木 守
-----	-----	------

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

総合計画上の位置付け	分野	防災・安全	施策の方針	消防機能の整備・充実
目標とすべきまちの姿	消防施設は老朽化耐震対策が実施され安定的に火災等への対応がなされています。消防救急無線はデジタル化が図られ、緊急時にも適切な情報通信が可能となっています。 市民の防火・防災意識は高く、すべての一般住宅には住宅用火災警報器が設置され、災害時の避難誘導等の減災体制は消防団、自主防災組織などの連携が効果的に行われています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度(回答者全体に占める割合)

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	令和元年度(2019年度)	13.4%	平成30年度(2018年度)	16.2%	平成29年度(2017年度)	14.8%
	平成28年度(2016年度)	14.7%	平成27年度(2015年度)	16.7%		

(2) 妥当性

令和元年度(2019年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.1%	1.6%	0.3%
ちょうどよい	2.2%	63.4%	1.8%
効果不十分	1.6%	1.6%	6.9%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

平成30年度(2018年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.3%	1.3%	0.5%
ちょうどよい	4.1%	58.7%	1.0%
効果不十分	3.5%	1.0%	7.8%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

平成29年度(2017年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.4%	1.8%	0.5%
ちょうどよい	4.4%	58.0%	1.6%
効果不十分	2.5%	1.9%	8.6%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

平成28年度(2016年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.8%	2.7%	0.7%
ちょうどよい	3.7%	59.7%	1.6%
効果不十分	1.6%	2.5%	6.6%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

平成27年度(2015年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.1%	1.3%	0.6%
ちょうどよい	5.3%	57.4%	1.9%
効果不十分	2.7%	1.4%	5.7%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
令和元年度(2019年度)	15.4%	63.0%	1.9%	19.7%
平成30年度(2018年度)	18.8%	57.0%	3.1%	21.0%
平成29年度(2017年度)	18.3%	59.8%	2.1%	19.9%
平成28年度(2016年度)	17.2%	61.8%	1.8%	19.2%
平成27年度(2015年度)	15.5%	59.9%	2.1%	22.5%

2 内部評価

(1) 令和元年度(2019年度)の目標

- ①引き続き、消防活動の拠点となる消防庁舎の適切な維持管理を行うとともに、消防団器具置場の耐震補強についても計画をもって実施していく。(消防-04)
- ②引き続き、職員に対して継続的訓練を実施し技術の向上を図る。(鎌倉・大船消防署警防活動)
- ③引き続き、高機能消防指令センター構築による円滑な指揮命令及びシステム操作研修を適宜実施し災害活動の充実を図る。(消防-09)
- ④引き続き、市民の救命率を向上するため、市内コンビニエンスストア等に設置したAEDの適切な運用・周知及び救急講習の受講人員の向上を図る。(消防-06)
- ⑤消防法違反対象物に対して是正指導を行うとともに、市民の防火防災意識の向上のため防火管理指導の徹底を図る。(消防-10)
- ⑥消防団の装備充実を図り、訓練を実施し常備消防との連携を図る。(消防-03)

(2) 目標とすべきまちの姿と令和元年度(2019年度)の目標との関連性

- ①消防庁舎や消防団器具置場の適切な維持管理を行うことにより、継続して安定的な災害への対応がなされる。(消防-04)
- ②各種災害対応への継続的な実戦訓練をすることで、安定的な災害への対応がなされる。(鎌倉・大船消防署警防活動)
- ③高機能消防指令センターの効率的な運用やシステム操作研修を実施することで迅速な指揮命令が構築され、安定的な火災等への対応がなされる。(消防-09)
- ④「目標とすべきまちの姿」には具体的な記述はないものの、市内のAED設置場所の周知・拡大をすることで、救命率の向上が図られ、市民が安心して暮らせるまちに近づくことができる。(消防-06)
- ⑤防火対象物への立入検査を計画的及び継続的に実施することで防火意識の向上が図ることができる。また、市内の住宅用火災警報器の設置率を調査し、その結果から設置率向上に向けた取組みを行うことで市民の防火意識の向上が図ることができる。(消防-10)
- ⑥消防団に配置する装備を強化し、常備消防と訓練することにより消防団との連携が図られるとともに、災害時の減災体制が効果的に発揮できる。(消防-03)

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		職員数(人)		法定受託事務	今後の方向性	
整理番号	事業名	令和元年度(2019年度)	平成30年度(2018年度)	令和元年度(2019年度)	平成30年度(2018年度)		事業内容	予算規模
消防-01	消防運営事業	46,643	45,428	4.5	4.5	無	b	B
消防-02	消防施設管理事業	23,372	18,211	1.0	1.0	無	b	B
消防-03	消防団運営事業	76,722	63,848	1.0	1.0	無	b	A
消防-04	消防施設整備事業	0	2,826	0.0	0.5	無	b	B
消防-05	警防活動事業	29,656	24,328	1.8	2.0	無	b	B
消防-06	救急活動事業	20,378	15,446	2.0	1.0	無	b	A
消防-07	消火栓管理事業	8,464	5,025	0.2	1.0	無	b	B
消防-08	車両購入事業	236,831	98,271	1.0	1.0	無	b	B
消防-09	指令活動事業	128,741	85,573	13.0	13.0	無	b	A
消防-10	予防活動事業	959	961	11.0	10.5	無	b	B
-	鎌倉・大船消防署警防活動	0	0	195.0	192.0	無	b	B

(4) 主な実施内容

【主な実施内容】
①消防団員の安全確保・活動サポートのため活動服及び非常用飲食糧の配備を行った。(消防-03)
②救命率向上のため学校開放用AEDの設置を進めた。(消防-06)
③救急救命士の新規養成のため、2名の職員を研修へ派遣し資格取得を行い、救急体制の充実を図った。(消防-06)
④市内防火対象物に対し防火査察を実施し、消防法令違反対象物に是正指導を行った。(消防-10)
⑥継続的に訓練を実施し、消防技術の向上や経験・知識不足解消に努めた。(鎌倉・大船消防署活動)
【実施できなかった事業とその理由等】
①災害対応に支障はなかったが、各消防庁舎の老朽化は顕著であるため、安定的な災害への対応ができるよう今後も適切な維持管理を進めていく。
②退職する救急救命士の増加や救助隊及び指令情報課へ配置を確保するため、新規養成及び教育を推進する。
③消防団の配備しているデジタル無線機は配備数が充足していないため増強配備を検討したが、機器の電波状況や性能面等を検討を進めたが導入に至らなかった。引き続き切迫する大規模災害に対応していくため、増強配備を進めていく。

(5) 令和元年度(2019年度)の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切 □ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切 □ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切 □ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切 □ 要改善
<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>		
<ul style="list-style-type: none"> ・消防庁舎の老朽化は顕著であるが、経年・劣化状況を見極め適正な修繕を行ったことにより災害対応に支障をきたさなかったため適切と評価した。 ・各消防署では継続的な訓練を実施し、若年職員を含めた職員個々の消防技術の向上や知識、経験不足の解消が図られたことにより、効率・有効性の点で適切と評価した。 ・消防車両の経年を見極め、更新計画に基づいて予算の範囲で最新鋭の車両への更新を行い、消防力の向上に努めたため、適切と評価した。 		

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	消防-04	事業名	消防施設整備事業							
指標の内容	消防施設の整備					単位	%	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)			
消防庁舎の維持・修繕を行い、災害時の安定的な対応のため	目標値	-	-	-	80.0	80.0	85.0			
	実績値	-	-	-	80.0	80.0	85.0			
	達成率	-	-	-	100.0%	100.0%	100.0%			
整理番号	鎌倉・大船消防署	事業名	鎌倉・大船消防署警防活動							
指標の内容	各訓練等の実施日数					単位	日	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)			
災害活動のため各種訓練を実施し組織力の向上を図るため。	目標値	-	-	-	365.0	365.0	365.0			
	実績値	-	-	-	365.0	365.0	365.0			
	達成率	-	-	-	100.0%	100.0%	100.0%			
整理番号	消防-06	事業名	救急活動事業							
指標の内容	救急講習の達成率					単位	人	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)			
心肺蘇生法及びAEDの取扱いを習得してもらい、市民による救命率向上を図るもの	目標値	3,000.0	3,000.0	3,000.0	5,000.0	5,000.0	5,000.0			
	実績値	3,975.0	4,061.0	4,020.0	4,003.0	4,127.0	4,371.0			
	達成率	132.5%	135.4%	134.0%	80.1%	82.5%	87.4%			
整理番号	消防-03	事業名	消防団運営事業							
指標の内容	消防団の装備充実					単位	-	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)			
消防団員が安全・迅速な活動を行うことで市民の安全を守るため。	目標値	-	-	防火衣・活動服	防火衣	救命胴衣	活動服			
	実績値	-	-	防火衣・活動服	防火衣	救命胴衣	活動服			
	達成率	-	-	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			